

# JAMP AIS

–JAMP アーティクルインフォメーションシート–

## 作成手順書

JAMP AIS Ver. 4.x 準拠

2013 年 12 月 24 日



*Copyright 2013 JAMP. All Rights reserved*

## **JAMP AIS作成手順書**

JAMP AIS Ver.4.x準拠

発行日 : 2013年 12月24日

発行責任者: アーティクルマネジメント推進協議会

本書の無断での複製、転載等は著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書に記載されている文章、図表等を複写される場合は、発行者の許諾を得てください。

また、本書に記載された情報の利用にあたっては各自の判断に基づき行うものとし、発行者はそれによって生じた一切の損害については責任を負いかねます。

# 目 次

序文( Introduction ) .....	P4
1章 適用範囲 ( Scope ).....	P6
2章 引用 ( Reference ).....	P6
3章 用語の定義 ( Terms and Definitions ).....	P7
4章 AISの作成 .....	P12
4. 1 AISの発行単位.....	P12
4. 2 記号の意味.....	P12
4. 3 AISの作成.....	P12
4. 3. 1 AISの作成手順 .....	P12
4. 3. 2 AISにおける情報伝達について .....	P18
5章 複合化された成形品への対応 .....	P19
5. 1 複合化.....	P19
5. 2 複合化における要求事項.....	P19
5. 3 階層の取り扱い.....	P20
5. 4 複合化の手順.....	P22
図3 複合化における「階層」項名称の扱い.....	P23

## 添付資料

よく聞かれる質問と回答 .....	P24
-------------------	-----

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-2-1(三井住友銀行神田駅前ビル7階)

一般社団法人産業環境管理協会内

JAMP事務局

E-mail: [jamp@jemai.or.jp](mailto:jamp@jemai.or.jp)

# 序文（Introduction）

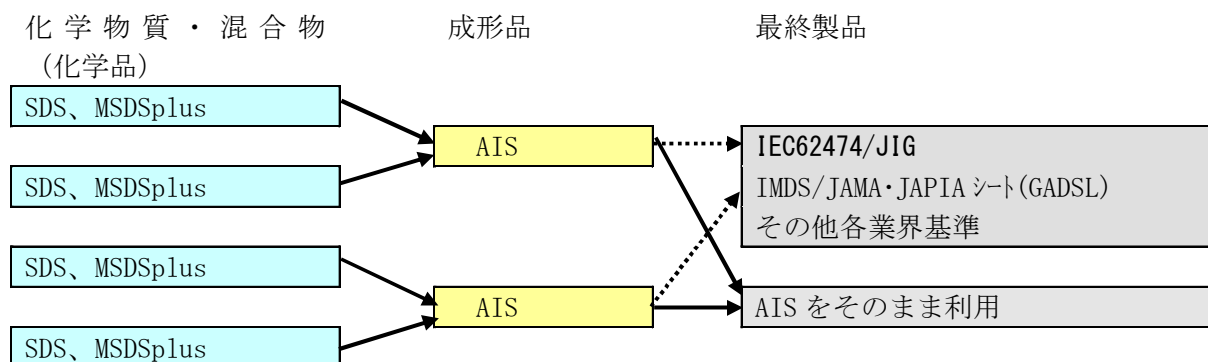
化学製品に含有される化学物質の情報（製品含有化学物質情報）は、サプライチェーン（以下SC）に関係する人々の健康障害予防や環境保全のために極めて重要です。

しかしながらその伝達方法は必ずしも効率的な方法が標準化されていないため、SC全体にわたって各種の問題が提起されています。

そのため、SC全体の関係企業の有志が集まり、「アーティクルマネジメント協議会（JAMP）」を立ち上げ、その改善を行なっています。

JAMPでは下記のような基本的な情報伝達シートで、製品含有化学物質情報を伝達することを推奨しています。【図1】

- 化学物質、混合物については、「SDS」および「MSDSplus」で伝達します。
- 成形品については、SDSおよびMSDSplusの情報をもとに、成形品に含有される化学物質の情報を「AIS（アーティクルインフォメーションシート）」に変換して伝達します。
- 最終品については、「AIS」の情報をもとに最終製品に含有される化学物質の含有情報を確認します。



【図1 情報伝達のイメージ】

MSDSplusは、SDSで伝達する情報を補完する目的でJAMPが作成した製品含有化学物質情報伝達シートであり、「製品中に含有される成分を管理対象とする法規等の名称」、管理対象物質の「含有有無」、「物質名」、「CAS番号」、「濃度」などの情報を記載し、ダウンストリームユーザー（以下DSU）に伝達するために使用されます。

化学製品は、DSUによって混合物または成形品に加工されます。その際に、化学製品の成分は、化学反応、濃縮、希釈などによって成分の種類や濃度が変化します。

変化の内容や程度は、DSUの加工条件によって大幅に変化し、加工条件はDSUごとに異なるので、川上企業である化学物質や混合物のメーカーは成形品等に加工された後の化学成分の濃度などを

正確には予測できません。

そのため、各化学物質や混合物のメーカーは、自社化学製品である時点での成分に関する情報をSDSやMSDSplusに記載して提供し、DSUIは、各化学物質や混合物のメーカーから提供されたSDSやMSDSplusを基に、加工条件を考慮して自社成形品に関する含有化学物質の種類と濃度を検討し、AISに記載して販売先(インダストリアルユーザー)に伝達する必要があります。

実際のSCでは、化学物質、混合物、成形品、最終製品などを同時に扱う企業が混在します。2013年2月に公開されております「製品含有化学物質管理ガイドライン」では、これらの業態を7種類に分けてSDS、MSDSplus、AISを有効に利用するように工夫されています。ガイドラインとAIS／MSDSplusとを併せて使用することにより、SC全体の情報伝達が円滑に流れるように設計されております。皆様のご理解とご利用をお願いいたします。

なお、AISは、IMDSIなどの既存の製品含有化学物質調査フォーマットと、その対象範囲において重複するものではなく、それら調査フォーマットへ入力する情報を提供するツールとして設計されるように意図しております。さらにAISは、MSDSplusと連携して「段階的な改善および運用」を考慮しており、その中で、既存フォーマットとの「橋渡し」などの課題を抽出しつつ、改善を加える予定です。

# 1章. 適用範囲（Scope）

---

当手順書は、AISを作成し運用を行おうとする全ての関係者に利用されることを想定しています。

AISは、工業製品そのものであるか、最終的にその中に組み込まれるか、または含まれる成形品を対象としています。

また当手順書は、成形品の製造工程に携わり、成形品を流通させ、成形品の含有する化学物質の情報を管理する組織の資材調達者、加工者、販売者、その他共通情報管理者をAISの使用者として想定します。

ただし企業間取引に適用されるものであり、一般消費者が購入を決定する際に使用されることを想定しておりません。

AISは含有化学物質情報を川下企業に開示ないしは伝達するために作成するもので、情報の認証を目的とするものではありません。

- ★当文書の1～3章はAISを作成・利用される全ての方に共通する部分を説明しています。
- ★当文章の4章は、主に「原部品」のAISを作成される方を対象として説明しています。
- ★当文章の5章は、主に「複合化された成形品」のAISを作成される方を対象として説明しています。

作成・ご利用になるAISのタイプに応じて参照いただく場所が異なります。該当する箇所を参照戴けます様、ご留意願います。

## 2章. 引用（Reference）

---

「JAMP AIS 作成手順書」の位置づけは、「JAMP製品含有化学物質管理ガイドライン」の付属文書として、AISの具体的な記入事項を説明しています。

その他の引用文書

- アーティクルマネジメント推進協議会規約（JAMP規約）
- 「JAMP AIS・MSDSplus 解説書 第3.1版」
- 「JAMP MSDSplus Ver.4.x作成の手引き」

## 3章. 用語の定義 (Terms and Definitions)

---

### (1) JAMP AIS (JAMP アーティクルインフォメーションシート)

JAMPによって作成された、成形品が含有する化学物質情報を開示・伝達するための情報伝達シート。

AIS: Article Information Sheetの略称。

### (2) 化学物質 (Chemical substance)

天然に存在するか、または任意の製造過程において得られる元素及びその化合物。

注記1 例: 酸化鉛、塩化ニッケル、ベンゼンなど

注記2 多量のデータ処理を想定すると、CAS番号による整理が効率的と考えられる。ただし、CAS番号と化学物質の対応は必ずしも一対一ではなく、ある場合には一対多、多対一であり、極端な場合には多対多の対応となることに注意が必要である。「化学物質」にはCAS番号をもたないものなどの例外も多く、関係者間で運用ルールが必要である。

注記3 製品含有化学物質管理ガイドライン第2版では、サブスタンスという用語を使用していたが、JIS Z 7201に合わせて変更する。定義は変わらない。

### (3) 混合物 (Mixture)

二つ以上の化学物質を混合したもの。

注記1 例: 塗料、インク、合金のインゴット、はんだ、樹脂ペレットなど

注記2 製品含有化学物質管理ガイドライン第2版では、プレパレーション(調剤)という用語を使用していたが、JIS Z 7201に合わせて変更する。定義は変わらない。

### (4) 化学品 (Chemical product)

化学物質及び／又は混合物

### (5) 成形品 (Article)

製造中に与えられた特定の形状、外見またはデザインが、その化学組成の果たす機能よりも、最終仕様の機能を大きく決定づけているもの。

注記1 例: 金属の板材、歯車、集積回路、電気製品、輸送機器など

注記2 製品含有化学物質管理ガイドライン第2版では、アーティクルという用語を使用していたが、JIS Z 7201に合わせて変更する。定義は変わらない。

**[参考1] TSCAの定義**

米国化学物質規制（TSCA）では、アーティクルを「製品」あるいは「商品」とも呼び、次のように定義している。

- 製造中に特定の形状またはデザインに成形される。
- 最終使用時にその形状またはデザインに依存する最終用途機能を有する。
- 最終利用において化学的組成が変化しないか、またはその組成に変化があっても、別な商業目的をもたないもの。

ただし、米国のOSHAHCSや毒性化学物質届け出報告（40CFRPart372）では、「通常の使用／加工条件で危険有害性化学品を暴露放出しないもの」という条件が付け加えられている。

- 液体および粒体のものは、形状やデザインに関わらずアーティクルとは見なされない。

例：パソコンのキーボードやパソコン本体など成形された物体をいう。原部品より範囲が広い。

**[参考2] REACH規則の定義**

欧州の化学品の登録、評価、認可および制限に関する規則（REACH）では次のように定義している。

- アーティクルとは、その化学組成が決定するよりも大きくその最終使用の機能を決定する特定の形状、表面、デザインを製造中に与えられた化学物質または混合物からなる物体（Object）を意味する。

**(6) 原部品（Original Parts）**

化学物質／混合物から、化学物質の含有量が固定される成形・乾燥・加熱・塗布等の製造工程を経て製造された最初の成形品。

例：樹脂製のケースやパソコンキーボードの1つのキー、コンデンサ等

輸送機器の例：自動車用ブレーキパッド、工作機器の例：モーター用銅材

家具の例：スプリング用鋼材

〔注〕原部品は、上記例のとおり、「キーボードの1つのキー」のような単一の成形品のみと「コンデンサ」のように複数の成形品が組み合わさったものの、両方を広く定義している。

**(7) 部品（Parts）**

完成に至るまでの成形品。

例 パソコンの例：パソコンのキーボード

電子機器の例：電話機用受話器

輸送機器の例：自動車用ブレーキ

工作機器の例：電動ドリル用モーター

家具の例：ベッド用マット

**(8) 管理対象物質の含有と不純物**

管理対象物質の含有とは、部品・材料・製品中に成分・内容物として管理対象物質が検出されることをいう。

不純物とは、製品機能上、特定の役割が与えられていないでなおかつ製品中のCAS番号（あるいはその他の識別番号）で特定された化学物質と別のCAS番号（あるいはその他の識別番号）を有する物質とする。

一般の工業的な精製段階において除去されずに残る不純物も含有である。ただし、これらの

不純物・残留物に関しては、含有であるが、国内外の法規上閾値・許容値が示されている場合を除いて、技術的に予測することができない場合や微量であり含有量の情報が得られない場合には運用上含有と見なさないものとする。

## (9) 報告物質該当法令等（報告物質）

MSDSplusが規定する「管理対象化学物質：遵守対応すべき法規制が対象とする化学物質」の法令に、「GADSL」「IEC62474/JIG」などの成形品が必要とする報告リストを加えたものを総称する。

AISでは、これら報告物質該当法令等に該当する化学物質を「報告物質」と呼称する。

## (10) サプライチェーン( Supply chain )=SC

サプライチェーンとは一般的には、供給者から消費者までを結ぶ、開発・調達・製造・配送・販売までの一連の業務のつながりをいう。

当手順書では最終製品の製造までを指し、サプライチェーンには、素材メーカー・化学製品メーカー・原部品メーカー・パーツメーカー・セットメーカーなどが関係する。「SC」と略称する。

## (11) AIS 情報の開示

化学物質／混合物を購入して成形品を製造・販売する企業が、製品含有化学物質情報としてAISを作成し、ひとつ川下の企業(販売先企業)に提供すること。

## (12) ダウンストリームユーザー( Downstream user )=DSU

化学物質／混合物を購入して、成形品へ変換(生産)を行う、化学物質または混合物の受領者(recipient)。成形品に含有される物質の情報の開示主体者。「DSU」と略称する。

## (13) インダストリアルユーザー( Industrial user )

成形品を購入し、組立・取り扱いなどを行う成形品のrecipient(受領者)。  
成形品に含有される物質の情報の伝達主体者。

## (14) CAS 番号 (CAS Number)

アメリカ化学会の一部門である化学情報サービス機関(Cheical Abstracts Service: CAS)が、化学物質に付与している番号。

## (15) 意図的添加 (Intentional addition)

対象物に一定の性能を持たせるために添加された状態を言う。

## (16) 均質材質( homogeneous material )

定義は、欧州委員会発行のRoHS/WEEE指令 FAQを採用する。

均質材質とは、機械的に異なる材料に分解できない材料をいう。

「均質」という用語は、「全てに均一の構成物の」という意味である。「均質材質」の例として、個別の種類のプラスチック、セラミック、ガラス、金属、合金、紙、未実装基板、樹脂、コーティングがある。

「機械的に分解」という表現は、物質が原則として、ビスはずし、切断、粉碎、研削、研磨工程などの機械的な作業により分離できることを意味する。

#### 例1: プラスチック・カバー

別種の材料でコーティングされていない、または別種の材料が接着もしくは内側接着されていない1種類のプラスチックからなる場合が「均質材質」となる。この場合は、指令の限度値はプラスチックに適用される。

#### 例2: 周囲を非金属の絶縁物質で巻かれた金属ワイヤーから成る電気ケーブル

「均質ではない材質」の例である。なぜなら、異なる材料が機械的な処理により分離できるからである。この場合、指令の限度値は分離される材質それぞれに別々に適用される。

#### 例3: 半導体パッケージ

プラスチック成形材料、リードフレームに施されるスズの電気コーティング、リードフレーム合金、金ボンディングワイヤーなど、多くの均質材質が含まれる。

### (17) 安全データシート(SDS: Safety Data Sheet)

SDSは、安全データシートの英語略称。

化学物質を扱う事業者は、環境と健康の保護および作業上の安全に関する必要な措置をとるため作成され・提供される文書。日本では、労働安全衛生法(安衛法)・特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法「いわゆるPRTR法」)・毒物及び劇物取締法(毒劇法)でSDSの提供が義務化されている。記載書式は、ISO 11014-1(対応するJISはJIS Z 7253)にて規定されており、社団法人日本化学工業協会( Japan Chemical Industry Association:以下JCIA )からSDS作成のガイドラインが発行されている。

### (18) JAMP MSDSplus (MSDSplus: Material Safety Data Sheet plus)

JAMPによって作成された、SDSを補完して、物質/混合物が含有する化学物質情報を伝達するための情報伝達シート。

### (19) 材質分類

AISで情報開示する材質に関する分類リスト 材質リスト(最新版)参照。

### (20) 複合化 (Integration)

複数の原部品のAISにおける組成成分情報を組み合わせて、複合成形品の含有化学物質情報を記述すること。

### (21) 関連用語

#### (21-1) IMDS (International Material Data System)

自動車を構成する材料および含有物質情報を収集するためのシステムで、欧州のELV(廃車)指令に対応するため、1998年に欧米の自動車メーカー8社及びEDS社の共同プロジェクトにより開発された。

#### (21-2) GADSL (Global Automotive Declarable Substance List)

全世界の自動車メーカーにおける申告対象物質の統一化を目標に日欧米3極の化学工業会、自動車部品工業会・自動車工業会の共同で作成されIMDSで使用されている申告物質リスト。

**(21-3-1) グリーン調達調査共通化協議会**

( JGPSSI : Japan Green Procurement Survey Standardization Initiative )

グリーン調達調査の共通化を目指して調査対象リストおよび回答フォーマットを共通化することでグリーン調達調査にかかる調査労力を軽減し、回答情報の精度向上を目的とした協議会。

**(21-3-2) ジョイントインダストリーガイドライン( JIG )**

JGPSSI、CEA(全米家電協会)、DIGITALEUROPEの共同作業により作成され、JGPSSI、CEA承認の元に発行した製品含有化学物質情報開示に関するガイドライン。英文正式名称は「Joint Industry Guide (JIG) for material composition declaration for Electronic Products 」であり、発行元はCEA。JGPSSIは和訳版として、「電気・電子機器製品に関する含有化学物質情報開示 ジョイント・インダストリー・ガイドライン(JIG)」を発行している。上記ガイドラインは通称としてJIGと呼ばれる。(ガイドラインより)

**(21-4) IEC62474**

2012年3月に発効されたサプライチェーンでの電気電子製品の構成材料の情報申告に関する内容、書式、手続きなどについて定めた国際規格である。本規格の物質リストは、JGPSSIのベースとなっていたJIGを継承したものとなっている。(2013年7月時点)

電気電子製品の構成材料中の物質においては、IEC 62474データベースに収載されている物質に相当し、規定の条件に該当する場合には報告が必要とされている。

**(21-5) SVHC(Substances of Very high concern)**

本書では欧州REACH規則付属書XIVに掲載する物質の候補リスト(=認可対象候補物質リスト)としてECHA(欧州化学品庁)が確定し公表した物質とする。詳細は、JAMP発行文書「管理対象基準の解説」を参照のこと。

## 4章. AIS の作成

AISは成形品の付帯情報の1つとして販売先(インダストリアルユーザー)へ原則無償で提供する。

なお、AISは化学物質の非含有証明あるいは法規制への対応の保証を目的とするものではないが、AISの拡大利用として、取引契約の締結に基づき、成形品の製造者(または販売者)が、当該成形品が特定化学物質を含有しないことを宣言する「不使用証明書」として利用することもできる。

AISは、SCを通して必要な情報を川上から川下へ伝達する為に使用するシートであり、SDS、MSDSplusに記載されている全ての情報および既知の情報をもとに、成形品への変換を考慮して作成することを基本とする。

### 4.1 AIS の発行単位

AIS発行の最小単位は、「原部品」とする。したがって、原部品が製造される各工程ごとにAISを発行する必要はない。

発行するAISは原部品の形のままで流通するものの他に、以下のような原部品を組み合わせで加工製造した部品や製品のAISも該当する。

- ・複数の原部品の組み合わせ
- ・原部品へのさらなる化学物質／混合物から成形品への変換工程による成形品の追加
- ・または上記の組み合わせ。

### 4.2 記号の意味

AISにある \* 印の記号は、記入必須であることを表しています。

### 4.3 AIS の作成

#### 4. 3. 1 AISの作成手順

AISでは各項目について、それぞれ以下の要求水準を満たす精度の情報を記入する。

##### 1. AISに関する情報

使用書式	JAMP AISのバージョンを記載。 (必須、半角英数、10文字以内)
材質リスト	使用中の材質リストバージョンが表示される(自動)
物質リスト	使用中の物質リストバージョンが表示される(自動)
GPシートID	JAMPが予定している情報システム(GP)で登録された場合に賦与されます。直接記入は不要です。(自動)
シート整理番号	発行者が任意に使用してよい(任意、半角or全角、30文字以内)
初版発行日付	AISを最初に発行した年月日を記入。[YYYY-MM-DD]で記載 (必須、半角英数、10文字)
改訂日付	AISを改訂した最新の改訂年月日を記入。 [YYYY-MM-DD]で記載、未改訂の場合は、空欄とする。 (該当の場合必須、半角英数、10文字)
改訂履歴	改訂履歴を記入。半角の数字のみで記入し、初版は1と記載する。

	以降改版するごとに、2、3・・・と繰り上げて記載する。 (必須、半角数字、3文字以内)
--	--

## 2. 発行者会社情報

会社名 英字表記		AIS発行者の会社名を記入 (必須、半角、200文字以内)
会社名 母国語表記		母国語で会社名を記入 (任意、半角or全角、200文字以内)
会社ID	登録機関ID	DUNSなどの機関IDを選択 DUNS:0060, CII:0147など。 (任意、半角、4文字)
	会社ID	上記機関で登録されている企業IDを半角英数で記入 (任意、半角、13文字以内)
発行部門名		AISの発行部門名を記入 (必須、半角or全角、200文字以内)
発行部門住所		発行部門の住所を記入 (必須、半角or全角、200文字以内)
発行部門電話番号		発行部門の電話番号を記入 (必須、半角、100文字以内)
発行部門FAX番号		発行部門のFAX番号を記入 (任意、半角、100文字以内)
発行部門メールアドレス		発行部門のE-MAILアドレスを記入 (任意、半角、100文字以内)
作成部門名		発行部門のほかに作成部門を記載する場合に使用 (任意、半角or全角、200文字以内)
作成部門電話番号		作成部門の電話番号を記入 (任意、半角、100文字以内)
追加情報		発行者が任意に使用してよい (任意、半角or全角、200文字以内)

## 3. 成形品情報

ここでの成形品とは、販売製品の事を指します。

製造者会社名	成形品の製造者会社名を記入 発行者が商社の場合は、製造者名を記載 (必須、半角or全角、200文字以内)
一般商品名	成形品の一般名称を記入 (必須、半角or全角、200文字以内)
発行者型番 英字表記	発行者の製品型番を記入 発行者型番の英字表記は半角英数限定 (英字には記号を含む) (必須、半角英数、200文字以内)
発行者型番 母国語表記	母国語で発行者型番を記入 (任意、半角or全角、200文字以内)
複数品名・シリーズ品名	開示する情報が同一であることを条件に、シリーズ型番や複数型番を記入してもよい。その場合、型式を全て列挙すること。 (任意、半角or全角、200文字以内)
発行者備考	発行者が任意に使用してよい (任意、半角or全角、200文字以内)

## 4. 組成成分情報(成形品)

## 一般情報

成形品 報告単位 (個・m・m2・m3・cm・cm2・cm3から選択)		報告する成形品の単位を「個・m・m2・m3・cm・cm2・cm3」のうちもっとも適切なものを選択。原則、製品の包装材は含みません。(必須、選択肢限定)
成形品 質量		成形品の質量を記載 例) 調査単位が 個の場合 →調査対象アイテム1個当たりの質量 調査単位が mの場合 →調査対象アイテム1m当たりの質量 (必須、半角数字、整数部5桁以内、小数部4桁以内)
成形品 質量単位 (kg,g,mg 選択)		[kg, g, mg ]から、単位を選択 (必須、選択肢限定)
組成成分情報に関する宣言		報告物質の記載について、いずれか選択すること。 ★ 報告物質該当法令等に該当する物質の含有が無い場合は、以下を選択する。 『本製品は、報告物質該当法令等に該当する物質の含有は確認されておりません。』  ★ 報告物質該当法令等に該当する物質の含有が1つでも有る場合は、「報告物質」に必要事項を記載の上、以下を選択する。 『本製品は、記載とおり報告物質該当法令等に該当する物質の含有を確認しております。』 (必須、選択肢限定)
	GADSL	報告物質は、GADSLを対象にしていることを表示される。 (自動)
	IEC62474/JIG	報告物質は、IEC62474/JIGを対象にしていることを表示される。 (自動)

## 成分表

階層	
名称	「原部品」は記入不要。 「複合化された成形品」(以降は複合成形品と呼ぶ)にて使用するが、元となる原部品AISの「3. 成形品情報」における「成形品名」を転記する。 当該複合成形品を構成する(複合)成形品が部品でない場合には、「当該成形品にとってのこれを構成する(複合)成形品の成形品名」/「原部品の成形品名」を記載する。(詳細は図3を参照) (該当の場合必須、半角or全角、401文字以内)
員数	員数には各原部品の投入量を記入する。材質とその質量/報告物質とその質量が同一(または同一とみなせる)である原部品の数(類似部品例えば、チップ抵抗器の抵抗値が異なる場合、構成が同じでもその重量や報告物質の含有量が異なるものについては、対象としない)とする。 (該当の場合必須、半角数字、整数部4桁以内、小数部4桁以内)
部品	

名称	材質および物質の情報がどの部位を示しているか特定できる程度に、単一または複数の「部品」に分割して記載する。複数の「構成(均質材質)」であってもよい。 例)コネクタの、端子/ハウジング/リード線 (必須、半角or全角、80文字以内)
員数	「部品」の員数を記載する (必須、半角数字、整数部4桁以内、小数部4桁以内)
材質	
用途	均質材質ごとに報告する。 「材質分類」の「材質用途」より、もっとも適切なものを選択。選択例:母材、被覆、付着材 など (必須、半角or全角、80文字以内)
名称	均質材質について、「材質分類」より、もっとも適切なものを選択。「材質用途」1つに対して、必ず1つの材質を入力し、複数の材質を指定しないこと。 選択例:高合金鋼(R111)、セラミック(N720)、PET(P519)、ニッケルめっき(S002) など (必須、半角、12文字以内)
分類記号	
公的規格	材質(材料)の組成を、JISなど国際的に認知される規格で表現できる場合は記入すること (該当の場合必須、半角or全角、80文字以内)
質量	材質ごとに、質量を記入する。記入は平均的な値による固定値が望ましいが、最大値でも可とする。  原部品の場合、材質の合計は成形品質量に対してできるだけ100%になるように調整し記入する。複合成形品の場合は、JAMPにおいて、その充足率に関する考え方を検討しているが、すくなくとも収集された情報を集計し、成形品との差異を確認しておくことが必要である。 注意:員数を乗じた値を記入してはならない。 (必須、半角数字、整数部5桁以内、小数部4桁以内)
単位 (kg,g,mg,ugから選択)	単位は [kg,g,mg,ug]のいずれかから選択すること。 (必須、選択肢限定)
備考	(任意)
物質	
CAS番号	報告物質に該当するCAS No. がある場合に記入する (該当の場合必須、半角英数、16文字)
物質名	「報告物質」に該当する物質の含有がある場合、物質名を記入。含有については、「管理ガイドライン」に従い判断すること。 含有が複数物質の場合は行を追加して記入する。 (該当の場合必須、半角or全角、1024文字)
含有率	均質材質あたりの報告物質の含有率(単位%)を100以下の値で記入する。記入は平均値または最大値による固定値とする。有効数字3桁(4桁目は四捨五入)で記入し、%は付けない。 (該当の場合必須、半角数字、9桁以内)
質量	材質あたりの報告物質の含有量を記入する。記入はwt%(含有率)からの計算値を記入する。 注意:員数を乗じた値を記入してはならない。

	(該当の場合必須、半角数字、整数部 5 桁以内、小数部 10 桁以内)
単位	単位 kg,g,mg,ugより選択 (必須、選択肢限定)
備考	(任意)
法規制に閾値がある物質の記載方法につきましては、 [AIS,MSDSplus解説書の5.3項(3)含有情報の記載基準] をご参照ください。	
報告物質該当法令等	
SVHC	<p>■以下の対象物質について、該当する場合[1]を記載する。(自動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CLP [Annex VI CMR 1,2]</li> <li>・ESIS PBT [Fulfilled]</li> <li>・REACH Annex XVII [除: CLP Annex VI CMR 1,2]</li> <li>・ELV指令 4物質群</li> <li>・RoHS指令 6物質群</li> </ul> <p>■REACH SVHCに該当する場合は、該当項目に応じて[C](candidate)または[A](authorization)を記載する。(自動)</p> <p>■REACH Annex XVII、POPs AnnexIの物質用途(制限用途もしくは適用除外)に該当する場合、物質用途欄に該当記号を記載する。 (該当の場合必須、選択肢限定)</p> <p>■ELV指令、RoHS指令の適用除外用途に該当する場合、適用除外欄に該当記号を記載する。 (該当の場合必須、選択肢限定)</p> <p>■備考：任意、半角or全角、80文字以内</p>
備考	
CLP [Annex VI CMR 1,2]	
備考	
ESIS PBT	
備考	
REACH Annex XVII	
物質用途	
POPs	
物質用途	
ELV	
適用除外	
RoHS	
適用除外	
GADSL	GADSLに該当する場合は、該当項目に応じて[P](prohibitive)または[D](declarable)または[D/P]を記載する。(自動) 法令における適用除外等の知見が有る場合は、それらを備考欄に記載する。
備考	
IEC62474/JIG	IEC62474/JIGに該当する場合は、該当項目に応じて[R](regulated)または[I](information)、もしくは
備考	[A](assessment)を記載する。(自動)
任意報告物質	報告物質ではないが、任意に物質を報告する場合、[1]を記載。 また、その他の法規制情報として、製品が該当すると判断される法規制が別にある場合もこの記入欄を使用し、備考欄に該当法令を記入。 (例)EU包装・包装廃棄物指令
備考	(例)EU玩具指令

## 5. その他の情報 [A]

引用文献・制約事項・注意事項など	(任意、半角or全角、200文字以内)
------------------	---------------------

記入者の任意により、その他の情報を200文字未満で記入してもよい。  
「報告物質に関する、成形品の安全な使用を可能にする情報」を記載してもよい。  
なお、「意図的放出物質がある成形品」については、その旨および登録情報などがある場合それらについても、必ず記載する。

## 6. 集計

### 材質情報集計結果

分類番号、材質名称、質量等材質情報を集計し表示される。

### 物質情報集計結果

報告されたCAS番号、物質名、質量等物質情報が集計される。また、SVHC、REACH Annex XVII、RoHS指令対象物質該当の有無、含有される場合成形品中のSVHC濃度、RoHS指令対象物質の材質中最大濃度が集計される。

## <添付情報>

添付情報は、AIS記載事項とは区別して扱う。よって、この項目の変更は、AIS改訂の対象とはならない。

## 依頼者に関する情報

依頼者に関する情報は、企業間の流通の利便性を図る目的で記入欄を設けるもので、記入は作成者の任意である。

会社名		依頼者の会社名を記入 (該当の場合必須、半角or全角、200文字以内)
会社ID	登録機関ID	DUNSなどの機関IDを選択【記入は任意】 (任意、半角、4文字)
	会社ID	上記機関で登録されている企業IDを記入【記入は任意】 (任意、半角、13文字以内)
依頼部門名		依頼者の担当部門を記入 (任意、半角or全角、200文字以内)
依頼部門担当者氏名		依頼者の担当者名を記入 (任意、半角or全角、100文字以内)
依頼部門住所		依頼者の住所を記入 (任意、半角or全角、200文字以内)
依頼部門担当者電話番号		依頼者の電話番号を記入 (任意、半角、100文字以内)
依頼部門担当者FAX番号		依頼者のFAX番号を記入 (任意、半角、100文字以内)
依頼部門担当者メールアドレス		依頼者のE-MAILアドレスを記入 (任意、半角、100文字以内)
提出年月日		AISを依頼者に提出した年月日を記載 (任意、半角英数、10文字)
依頼者型番		依頼者より付与されている型番を記載 (任意、半角or全角、200文字以内)
発行者型番		AIS発行者の型番を記載 (任意、半角or全角、200文字以内)

依頼者備考 1	発行者が任意に使用してよい(サプライヤIDなど) (任意、半角or全角、80文字以内)
依頼者備考 2	発行者が任意に使用してよい (任意、半角or全角、80文字以内)
依頼者備考 3	発行者が任意に使用してよい (任意、半角or全角、80文字以内)

#### 4. 3. 2 AISにおける情報伝達について

AISにおける情報伝達は、入力支援ツールで生成することができるXML(eXtensible Markup Languageの略)(\*1)での情報交換を標準とする。また、書面およびPDFファイルなどでの情報伝達も否定しない。ただし、情報を記入した入力支援ツールをそのまま情報伝達することは、データの改ざんが危惧されるばかりか、ツールの容量が大きいためメール機能などのシステムに支障をきたす恐れがあるのでJAMPでは推奨しない。

(\*1)XML(eXtensible Markup Languageの略)はさまざまな情報を記述するための言語である。  
その他詳細は、「JAMP AIS入力支援ツール操作説明書」を参照

## 5章. 複合化された成形品に関する対応

複合化された成形品（以降は複合成形品と呼ぶ）のAISは原部品の情報を合わせて作成する。

複合成形品はSCを経る過程でさらなる情報の追加を経て、複雑な組立部品や組立製品と変貌を遂げる。REACH規則の届出義務を想定して欧州地域への輸出時に輸入者に対して成形品情報を提供するが、その時点で、どの程度の情報が合わされた複合成形品となっているのか、SCの中途段階で特定することは困難である。

すなわち、どのような階層の深さで情報が合わせられた複合成形品に対しても、含有物質の情報伝達を可能とする記述方法や伝達方法が複合成形品のAISには求められる。

複合成形品の特徴として以下の項目が挙げられる。

- ・多数の原部品から構成されうること
- ・複数の供給者からの原部品から構成されうること
- ・多段のSCの中で組み合わされて構成されうること

このような複合成形品の情報の特徴は以下である。

- ① 供給する製品としての複合成形品を構成する、最小単位である原部品にいたるまでの階層構成情報を含む可能性がある。
- ② 膨大な含有化学物質情報、材質構成情報を保有する。（二次的な側面として、データとして容量が大きい、受領者によってはニーズが高くない情報も多量に保有する）

特に①の問題に関連しては、情報量によっては当該複合成形品に関するBOM(Bills of Materials、部品表の意)情報に近い情報になりうるため、複合成形品製造者にとってのノウハウ漏洩のおそれという課題があり、バランスのとれた情報量への制御が必要である。

②の問題については、コンプライアンス上最小限に近い、管理物質の含有構成に関する情報と、成形品を構成する材質に関する情報が伝達することを確保しつつ、情報量の削減のために、共通する材質や同一の原部品の員数表記により情報の集約をはかることで対策を提案した。

### 5.1 複合化

複数の原部品のAISにおける組成成分情報を組み合わせて、複合成形品の含有化学物質情報を記述する操作を、『複合化』と呼ぶ。

### 5.2 複合化における要求事項

複合成形品に関するAISへの記述内容への要求事項は、以下の3点とした。

- (A) 最低限の階層情報と原部品情報の確保が実現できる
- (B) テキスト情報量として制限可能である
- (C) SC伝達における階層情報等の処理を機械的に実施可能

#### (A) の設定理由

- ・ RoHS指令やREACH規則での高懸念物質を管理（単に欧州化学品庁への届出、DSUへの情報伝達、消費者への情報開示などを満足させるため、あるいは将来的な制限への準備

などに必要な用途や安全に使用するための情報の把握に対処)するためには、報告物質含有箇所毎の質量や含有率が必要であり、加えてこれらの情報はSCの川下側へ伝達する必要がある。

- ・たとえ粗いレベルでも部品構成や材質情報を開示したくないサプライヤにとって情報を秘匿できる

#### (B) の設定理由

- ・ AIS記載情報の伝達主体が電子データによる方法であったとしても、帳票での閲覧可能範囲やデータを登録するデータベースに通常項目あたりの容量制限が存在する。
- ・ 複合成形品を構成する、最小単位である原部品にいたるまでの階層構成情報として、複合成形品製造者にとっての課題になるようなノウハウ漏洩は回避する必要がある。

#### (C) の設定理由

- ・ SCの段階に応じた命名への配慮など複雑なルール排除したい。
- ・ 多くの部品を用いる組立部品のサプライヤに、部品名称や構成名称の命名へ都度考慮を要求するといった煩雑な対応は回避したいといった事項がある。

### 5.3 階層の取り扱い

表1に示す構成を有するコントローラ(最終組立製品)の例を使い、図2を用いて説明する。

- ・ 図2において同一名称の部品は全く同一使用(組成・重量)の等価部品とする。
- ・ 上記の各段階の成形品組成成分情報における構成を示す部分を表1に示す。
- ・ 階層の員数は、構成する(複合)成形品の階層の員数にすでに入っていた値に最終組立前部品の数を乗じて求める。
- ・ コントローラの構成は、構成の一部である原部品(電解コンデンサ)4個(階層の員数)と原部品における等価な端子4個(部品数)とで1行に纏めて表すことができる。
- ・ 元となるAISの報告単位が、「個」以外の場合( $m$ 、 $m^2$ 、 $m^3$ )には、員数が小数点で表されることもある。

(例) 1mで報告されたケーブルを0.3mに切断して2本使用した場合には、予め、材質以下含有情報を0.3m相当に修正(AISを別途作成してもよい)した後、員数を2としてもよいし、元の1mで報告された情報をそのまま活用し、員数に0.6(m)を適用しても良い。

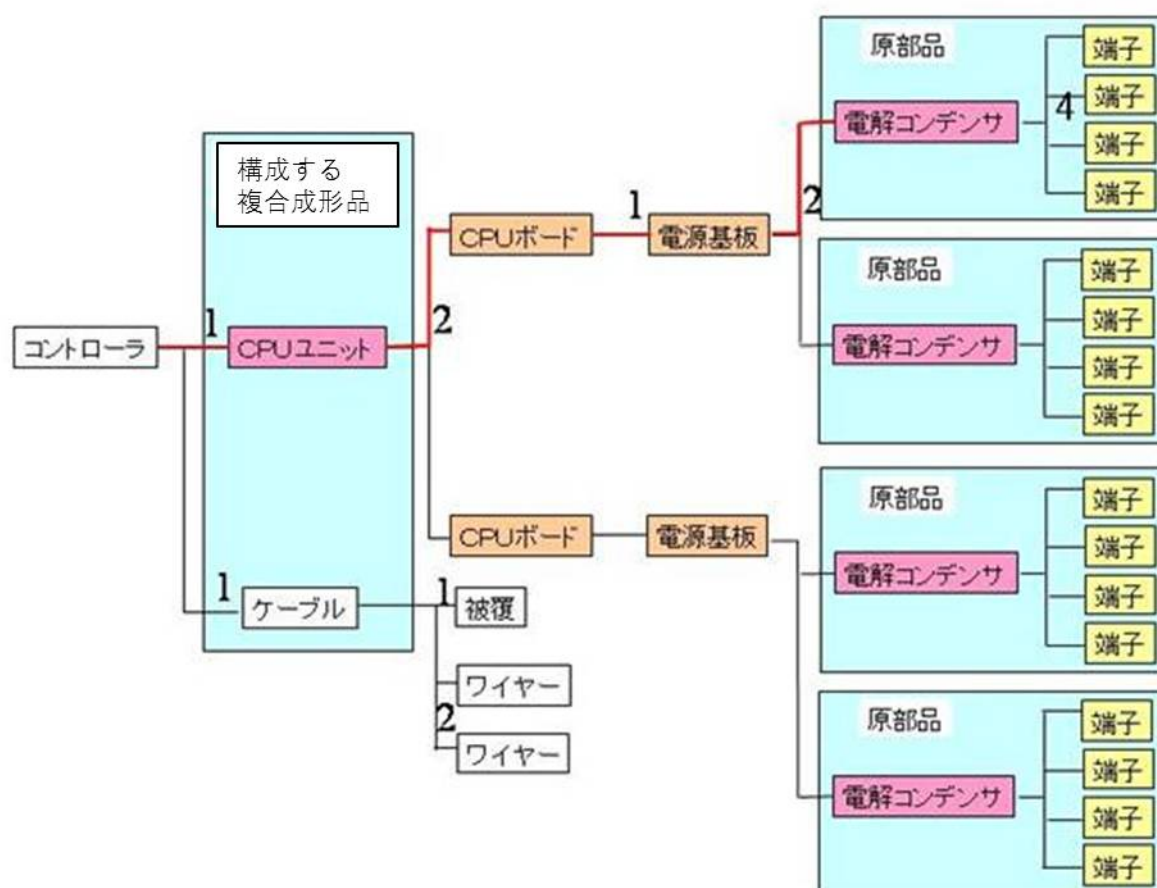


図2 コントローラの構成

表1 各段階の成形品の組成成分情報における構成を示す部分

成形品名	階層 構成する(複合)成形品～原部品	員数	部品	員数
電解コンデンサ			端子	4
電源基板	電解コンデンサ～電解コンデンサ	2	端子	4
CPUボード	電源基板～電解コンデンサ	$2 \times 1 = 2$	端子	4
CPUユニット	CPUボード～電解コンデンサ	$2 \times 1 \times 2 = 4$	端子	4
コントローラ	CPUユニット～電解コンデンサ	$2 \times 1 \times 2 \times 1 = 4$	端子	4
	ケーブル～ケーブル	1	被覆	1
	ケーブル～ケーブル	1	ワイヤー	2

## 5.4 複合化の手順

複数の原部品のAISにおける組成成分情報を組み合わせて、複合成形品の含有化学物質情報を記述するAISの複合化は、以下の手順により実施する。

部品組立後の塗装や、プリント基板への部品実装におけるはんだ付けなど、「複合化」する成形品製造者の工程において、化学物質／混合物から成形品へ変換される部分を生成する場合には、予めこれら塗膜やはんだ接合について部品としてAISを作成してから複合化を実施してもよい（予め原部品としてのAISを作成した後、「複合化」を実施することを推奨する）。

- ① 構成する原部品のAISにおける「4. 組成成分情報」を抜き出し、複合成形品のAISにおける「4. 組成成分情報」に転記する。
- ② 「階層」欄には、元となる原部品AISの「3. 成形品情報」における「成形品名」を写し、各部品の投入量に応じて、員数（5.3 複合化に関する情報における階層の項、員数に関する記述を参照）の欄も記入する。（図3参照）
- ③ 生産過程で化学物質／混合物を用いるため、参照するAIS以外に成形品が生成（ハンダ付けや接着、塗装など）する場合は、参照すべきMSDSplusや当該工程による物質変換に関する情報を揃えた上で、新たな部品記述行を生成し、名称や分類、質量などの情報を記述する。（AIS作成ツールを用いる場合には、当該成形品について予め原部品のAISを生成して、これから転記してもよい）

なお、②において複合成形品を構成する成形品が原部品でない場合は、構成する（複合）成形品の階層項には、以下のいずれかが記述されていること。

“構成する（複合）成形品にとっての「原部品名」”

または

“当該構成する（複合）成形品にとっての「成形品名」／「原部品名」“

この場合、“／”の有無を判定して、元となる当該成形品のAISにおける「3. 成形品情報」での「成形品名」と「原部品名」を“／”で結合し、生成する複合成形品のAISの「階層」欄に記入する。

図3 複合化における「階層」項名称の扱い

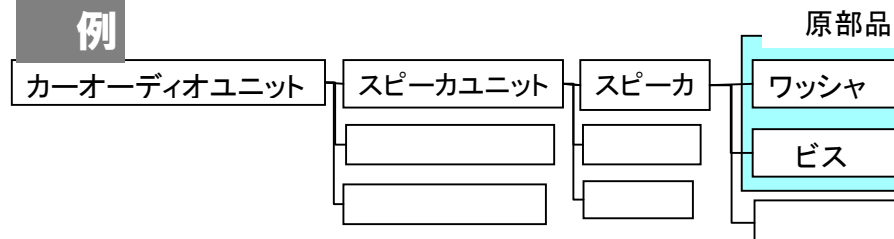
・階層名称、部品名称の記述は、

	階層名称	部品名称
原部品では	記入不要	部品名
複合成品品では	階層情報	部品名

とし、階層情報は成品品を構成する部品名の縮合情報とする

縮合情報としては、  
構成する(複合)成品品／原部品成品品名  
という“中抜き”情報とする

例



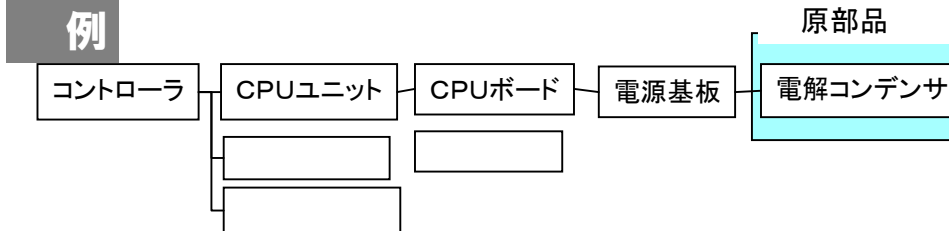
成品品名	階層	部品	構成
ワッシャ	(オリジナル)	ワッシャ	母材

成品品名	階層	部品	構成
スピーカ	ワッシャ	ワッシャ	母材

成品品名	階層	部品	構成
スピーカユニット	スピーカ/ワッシャ	ワッシャ	母材

成品品名	階層	部品	構成
カーオーディオユニット	スピーカユニット/ワッシャ	ワッシャ	母材

例



成品品名	階層	部品	構成
電解コンデンサ	(オリジナル)	電極箔	母材
	(オリジナル)	セパレータ	母材

成品品名	階層	部品	構成
電源基板	電解コンデンサ	電極箔	母材
		セパレータ	母材

成品品名	階層	部品	構成
CPUボード	電源基板/電解コンデンサ	電極箔	母材
		セパレータ	母材

成品品名	階層	部品	構成
CPUユニット	CPUボード/電解コンデンサ	電極箔	母材
		セパレータ	母材

成品品名	階層	部品	構成
コントローラ	CPUユニット/電解コンデンサ	電極箔	母材
		セパレータ	母材

# 添付資料

## よく聞かれる質問と回答

---

AISの検証段階において寄せられた意見・質問等について、解説しています。  
回答については、あくまでもJAMPの推奨であり、参考情報として扱われます。  
AISは、作成者の責任のもと記載・発行をお願いいたします。  
なお、内容は予告無く修正・追加・削除されることがあります。

### <材質、物質について>

#### Q1… AISの報告物質は、なぜ、材質ごとに必要なのですか？

A1… JAMPでは、化学物質/混合物を成形品に変換する際の化学物質管理が重要と位置づけています。また、成形品に変換された後は、原則その物質の含有量は、材質に固定されていると考えられます。したがって、最初に成形品に変換された際の情報をもとに作成されることを前提としています。一方、REACHにおける「届出」、「情報伝達」では成形品あたりではなく、さらに小さい単位での含有物質の判定を要望している国があります。また、「認可」や「制限」に該当した場合は、材質ごとに判断する必要があることも考えられます。既存のRoHSやELVIについては、すでに均質材質による判定が必要です。  
また、物質名開示について、営業機密とする場合があるとおもいますが、任意報告物質を除いてAISでは法令に該当する物質は、成形品における情報伝達が必要と考えており、原則開示にご理解願います。なお、含有量の管理については、「管理ガイドライン」を参照ください。

#### Q2… なぜ、材質情報が必要なのですか？

A2… A1にあるように、「それを管理ポイントとしていること」、および、昨今の法規制や各業界要求事項に照らし、必要と判断しました。材質情報は、成形品の構成部分の材料としての区別を行うことにより、リサイクル設計を主とする環境配慮設計に資する情報として活用されます。より具体的には、リサイクル可能率(ISO22629)やリサイクル率の推定も可能とすることを目的としています。事実、IMDSでは同様の情報が必須となっております。  
欧州のErP指令でも要求されるLCA(ライフサイクルアセスメント)には原材料の材質情報がよく活用されます。これへの使用を主目的とはしませんが、活用を阻みません。また、その他、部品名と構成の情報から大まかな用途が推定できるため、これと材質情報の組み合わせによる類推から、当事者が懸念する化学物質が含有(混入)するケースの想定可能となり、結果、ビジネスリスクへの対処に貢献しうる、という意見もあります。

#### Q3… 複合化の場合、部品を均質材料毎に全て開示することになり、ノウハウの流出につながる可能性があるのではないか？

A3… 材質といいましても、大まかな材料の分類であり、材料を構成する化学物質は報告物質に該当しない限り記載する必要がありません。

**Q4… 素材構成が丸見えとなり技術的なノウハウが流出する恐れがあるのではないか？**

**A4…** 材質情報は必ずしも精緻なものを要求していないと考えます。AISでは材質をほぼ完全に化学物質に展開して開示するようなことを要求していません。

**Q5… 提供先は詳細な材質情報を必要としていないから記述は不要ではないか？**

**A5…** AISでの伝達情報は環境や安全性に課題があるとされる物質の含有情報は自ら進んで伝達しよう、という理念に基づくものです。部品メーカーであって前記理念に合意できないのであればAISを採用しないことも一つの判断だと思います。最終機器メーカーであれば(受領者側が受領情報をさらに伝達する必要はない可能性が高いので)提出情報としてAISを採用するかどうかは自ら判断ください。

**Q6… 現在入手している情報により、報告物質の有無を判断するのが難しいのですが。**

**A6…** JAMPでは、SDS、MSDSplusの情報をもとに、AISを記入するように推奨しています。それらを手に入れ、記載された該当法令の判定をもとに、判断してください。また、物質を選択することにより、自動的に該当法令等をチェックする入力支援ツールも提供いたしますので物質が既知の場合は利用ください。なお、入力支援ツールはあくまでも補助的なものですので、最終的には作成者が記載事項に責任をもって発行ください。

**【Q7 A7は欠番】**

**【Q8、A8は欠番】**

**<報告書式について>**

**Q9… 「混合物を含む成形品」について、報告の書式を教えてください**

**A9…** ①「化学物質・混合物が容器に入った製品(スプレー缶、インクカートリッジなど)」  
化学物質・混合物は、MSDSplusを作成し、容器は、AISで作成してください。

②「意図的放出のある成形品(香りつき消しゴムなど)」  
AISを作成し、「5. その他の情報」で必ず意図的放出があることを報告ください。  
混合物の材質分類は、「運転用調剤」から選択してください。

③「意図的放出の無い成形品(バッテリーなど)」  
AISを作成してください。混合物の材質分類は、「運転用調剤」から選択してください。

**Q10… 「包装材」のAISは、製品と分けるのですか？**

**A10…** 包装材については、原則、製品と分けて発行してください。ただし、販売先の同意が得られる場合は、製品と一緒に発行しても結構です。また、複数の包装材を1枚のAISで記載いただいても結構です。なお、包装材については販売先の要求が無い限り発行は必須ではありません。

**<記入欄について>**

**Q11… 「GPシートID 」とは？**

**A11…** 今後JAMPでは情報基盤を整備し、AISの信頼性を向上するために認証制度を導入する予定です。その際にAIS管理Noや会社IDを付与する予定ですが、その制度が施行されるまでここは空欄で結構です。

**Q12… 送付案内情報 が、AISと区別されている理由は？**

**A12…** AISは供給側が自主的に作成し情報伝達することを前提にしています。従って、その更新管理も発行者の責任で実施が必要になります。販売先への送付のたびに更新することはできませんので、送付案内情報は区別しています。なお、上記A11の認証制度の際の更新管理も加味しています。

**【Q13 A13は欠番】****Q14… 名称の記載方法にルール化が必要ではないか？**

**A14…** 成形品名の事例は商品分類などを参照いただければ部分的には可能ですが、部品名、特に図面で独自命名される機構系部品などは製品分野ごとに独自に使用されており共通化は困難と考えます。

**Q15… 川上からの情報をそのまま川下にする事は秘匿情報の取り扱いとして問題ないのか？**

**A15…** AISでの伝達情報は環境や安全性に課題があるとされる物質の含有情報は自ら進んで伝達しよう、という理念に基づくもの、すなわち秘密にしてもよいとは考えない物質の情報と考えています。川上からの開示が守秘契約に基づくもの、あるいは川上から情報伝達の制限を受けているものであるならば、川下への開示範囲は川上との十分な議論と確認をお願いします。

**Q16… 問題がある場合は、結局SCの川上側メーカーに確認しないといけないので、中途半端な含有部位情報は無くても良いのではないのか？**

**A16…** REACHの場合は含有が禁止されていないものの情報の開示が必要なので用途を理解する上で必要です。

**Q17… 組み立て物を購入した場合、組み立て物として管理したいにもかかわらず、部品の員数などの情報が入ってきては迷惑ではないか？**

**A17…** 顧客の要求は千差万別です。少なすぎる情報で制限すると、別の要求のために新たなフォーマットが出現して、川下側からの調査要求・回答、という非効率なスキームに陥りてしまいます。色々なニーズと妥当性を議論して仕様を決定してきました。必要な情報だけを抽出して管理されては如何でしょうか？

**【Q18、A18は欠番】****Q19… MSDSplusで対象となっている規制(例:化審法)の物質が含有されている場合にはAISに転記を義務付けして欲しい。**

**A19…** 化学物質や混合物から成形品を製造する際に、成形品に残留する報告物質が残留する

場合はその旨を記載します。この残留する報告物質の情報をMSDSplusより得た場合は、AISに記載されます。報告物質が必ず残留するとは限りませんので、義務付けはできません。

**Q20… 階層が視覚化されていないので、作成/閲覧時に理解しにくく、間違いやすい。機密性の問題があるのであれば、作成時だけでも視覚化(チャート化など)したら便利になる。**

**A20…** ご提案のような機能のニーズもあるでしょう。残念ながら、JAMPから配付するツールは最低限の機能に限定したものであり、ご提案のような機能を付加する予定はありません。JAMPよりツールの必要仕様を提示しますので、サードパーティからそのような機能を有するツールが出現することを期待下さい。

## 【Q21 A21は欠番】

### ＜階層について＞

**Q22… 企業間の情報伝達に階層が必要な理由がわからない。**

**A22…** 含有が規制されている物質の情報を伝達されても、規制が適用されるのかどうかは最終製品の用途や、当該物質の使用用途ごとの判断が必要な場合があります。階層は、どのサブアセンブリに使用されている原部品であるのかを大まかに把握するために必要です。

**Q23… 複合成形品のAISにおいて、取引先の最下層原部品AISの情報と員数が見えること自体おかしくないか。**

**A23…** 上位サプライヤの名称や製品の型番の伝達は要求していません。「ガラスに鉛が含有されている」という情報だけでは、電子部品のガラスなのか光学ガラス部品なのか不明となります。員数は、集約し情報量を削減することを目的としています。製品の型番が違って材質や含有物質情報が共通であれば集約が可能です。逆に、員数を使用せずに20個使いの部品を20倍の質量で記述された方が無用な疑念を伝達することになる、と考えます。

**Q24… 階層情報も中抜きとしても、階層をできる限り秘匿したいケース(新商品の場合等)もある。どこまでの秘匿が許されるか？**

**A24…** 提供を受けた側の情報の利用方法(下位の顧客のデータベースへの入力など)にも依存します。守秘契約や一部の情報での許容を依頼するなど、個別の契約の範囲で対処ください。但し、新たな伝達書式の生成もまた、SCで、あなたの川下側にいる潜在的な顧客の負荷を増大させる可能性があることを認識してください。

**Q25… 階層情報は不要で、化学物質/材質の情報とRoHSの除外規定適用状況(どの部品に適用しているかを含む)だけで十分ではないか？**

**A25…** 最終用途が決定する段階では適用除外項目などが確定しますが、川上では確定しないので上記の考えは一般的ではないと思います。

**Q:26…Ver4より依頼者情報は無くなりますか？**

**A26…** 依頼者情報は残しています。また雛形を作り対応しやすくしています。同一製品を多くの顧客へ提供する場合、何パターンもできてしまうためJAMP-GPへの移行を勧めます。ただし雛形作成は必須ではありません。

### ＜複合化における原部品の追加について＞

**Q27… 成形する上で使用する副資材(半田、フラックス、溶剤)添加剤類は全て記載するのでしょうか？**

**A27…** 成形品に変換されて、材質や含有物質として追加されるものは、その変換内容に応じて記載をお願いします。塗布されても揮散して追加されないものは不要です。

### ＜記入例について＞

**Q28… 具体的な記入例はありますか？**

**A28…** 「具体的な記入例」をホームページに公開しておりますので、参考にしてください。

**Q29… 機器製品についての情報はある程度網羅されているかもしれないが、フィルムや紙の供給者にとって理解されるであろうか？**

**A29…** 層構成などは、材質分類は詳細でないため秘匿の必要を認めませんが、層数など構成に関わる情報は秘匿性が高いケースがあるでしょう。そのような場合には報告すべき含有物質を有しない、あるいは同じ組成の層が複数ある場合であれば、合算して報告しても実害はないでしょう。備考欄に「複数の層を合算」等と記載すれば親切かもしれません。

**Q30… 納入部品の総重量と組み立て後の実際の製品の重量が異なる場合、含有量算出の分母としてどちらを選べばよいのか迷う。**

**A30…** 「7.成形品あたりの特定化学物質濃度情報」「4. 組成成分情報」の成形品重量には、成形品質量を分母にしています。たとえ材質用途別の記述ができない部品があったとしても製品の重量を記述してください。

### 【Q31、32 A31、32は欠番】

**Q33… 表面処理(メッキ)についてAISの作成方法を教えてください**

**A33…** JAMPでは、「製品含有化学物質の管理および情報伝達・開示に関するガイダンス めっき工程」をホームページにて公開しております。今後も、製品含有化学物質の管理および情報の開示、伝達について支援する目的で、カテゴリーごとのガイダンス作成をおこない公開する予定です。

**Q34… 取扱説明書などの印刷物のAISは作成方法を教えてください**

**A34…** ・作成単位は、一つのまとまり(取説1つにつき1つ)が最小単位もちろん差がない場合はグルーピング化をされることをお勧めします。

・「紙」「インク」「止め具」は、それぞれが1つの材質を構成すると考えてください。「インク」は表面処理の塗装として、「紙」「止め具」は母材として分類します。(インクは、JAMP AIS材質分類説明書 p8でも「塗膜樹脂」の項を参照下さい)

・各材質に対して報告物質があれば記入願います。インクは「顔料」「充填材」「熱硬化性(熱可塑性)樹脂」の混合物と考え、最終的に紙に残る成分のみで表現して下さい。

・材質質量に対しては、取扱説明書の総重量に対する各部位の重量を、報告物質と任意報告物質は、材質中の重量を記載する。インクの重量は、印刷工程でのマテリアルフローの平均値と、印刷数量あたりのインクの投入量を算出、一方、インク中の固形分濃度を把握し、これ

らから印刷数量(面積か)あたりのインク固形分重量を固定値として処理して計算する方法など、作成者で考えられるレベルの推定値で構いません。

- ・ インク中に報告物質が無い事が既知である場合、あとは材質情報のみの提供と する事ができます。材質情報はリサイクル性検証を意識して設定した分類ですのでこれが判るレベルでの区分であれば、大きな誤差は生じないと考えます。

**Q35… 当社は商社ですが、AISを発行するのは製造会社でしょうか？製造会社がAISを作成できない場合に、当社がAISの作成を行ってよいでしょうか？**

**A35…** JAMPの考え方は、化学物質情報を上流から流し、加工又は変化があればその内容を加味して下流側に伝えサプライチェーンで管理してゆく事を目的としています。基本的には、上流を一つ飛び越えてデータを作ることになるのは好ましいことではなく製造会社に作成いただくことをお勧めいたします。「競争法」的に厳しい見方をすると、情報の扱いに問題が出てくる心配も発生します。そのことを理解された上で、AISの発行主体は、製品の含有化学物質情報を把握しているのであれば、商社であることは否定しません。なお、例えば、実際に製品を生産されているメーカーはB社であるが、材料を指定し、その仕様管理もA社が行っている形態のビジネスの場合、A社が情報を把握してAISの発行主体となるのが妥当です。製品に関する物質情報を、既に貴社にてお持ちで、なおかつその情報にて過不足なくAISが作成でき、貴社のお名前で情報を発行できるのでしたら問題はありません。AISのフォーマットでは、AISの発行者と製品の製造者をそれぞれ記入できるようになっております。品質管理の中で、提供する部材の中にはこのような物質が含有されており、こういったリスクがあるのか、または無いのかをサプライチェーン全体に伝えて行く事が必要というのが国内のみならず世界的な潮流であると認識しております。貴社の裁量範囲で、提供物の中には何がどの程度含有されているのか、適切なレベルで把握・管理した上で、情報を提供されることを期待しております。

# 改訂履歴

改訂履歴	
2011年12月16日	<JAMP AIS Ver. 4.0*準拠>
2012年 3月16日	誤記修正 P12 登録機関IDの説明 ⇒ 一部削除 P14 最下段 ⇒ 訂正(標準システム仕様書に合わせた) P16 4.3.1 の6. 集計 ⇒ 訂正 P19 5.3 階層の取り扱いの下から二番目の項 ⇒ 削除
2012年 6月19日	誤記修正 P16 4.3.1 の6. 集計 ⇒ 訂正
2013年 6月25日	JAMP AIS Ver. 4.x準拠
2013年 12月24日	管理ガイドライン第3版対応